

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	2年間の目標 (平成30年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	将来の日本や国際社会でリーダーとして活躍できる高い資質、能力をもった人材を育成する教育課程編成、及び学習指導に学校全体で取り組む。	①新しい学習指導要領を踏まえ、発展的で高度な内容の授業実践を組織として充実させる。 ②新しい大学入試制度を視野に入れつつ本校にふさわしい新カリキュラムの検討を始める。	①教科の枠を越えた授業互見の雰囲気醸成及び湘南高校での授業実践に関する各教科での研修の実施。 ①進学重点型主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の研究の推進。 ②新しい大学入試制度のさらなる情報収集。	①授業研究発表会において、発表者個人の研究ではなく事前に教科として研究授業の内容を把握しアドバイスができたか。 ①校内職員対象進学重点型主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究説明会に参加できたか。 ②新しい大学入試制度の情報を職員に提供できたか。					
2 生徒指導・支援	①次世代リーダーとして、望ましい社会性、高い規範意識、心豊かで他者を思いやる人間性を育成する。 ②組織的で丁寧な個別の支援体制を確立する。	①部活動等を通し、次世代リーダーとして社会貢献活動やボランティア活動の一層の推進を図る。 ②学校いじめ防止基本方針や支援教育の視点を全職員が共有し、個別の支援のためにケース会議の充実を図り、課題の解決にあたる。	①部活動等が自主的にできる範囲の社会貢献活動やボランティア活動を提示する。 ②管理職、担任、養護教諭、教育相談コーディネータとスクールカウンセラーが連携し、個別の支援のために相談機関等を活用してケース会議で支援方針を立て個別支援シートに蓄積していく。	①部活動等を通じた社会貢献活動やボランティア活動が昨年の5部活から増加したか。 ②ケース会議での取り組みが支援に必要な生徒の指導に生かせ、課題解決につながったか。					

	視点	2年間の目標 (平成30年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	一人ひとりが将来を見据え、主体的に進路実現できる生徒を三年間を通して育成する。	①公立高校のフラッグシップであることを認識し、生徒が希望する難関大学進学を実現するため、最後まであきらめないよう粘り強く丁寧な指導を行う。 ②公立高校を牽引する役割としてふさわしい進路実績のさらなる向上を図る。	①②学力向上へ向け、進路希望や成績データを担任、教科担当者、部活動顧問などが共有できる組織づくりを進め、入学から卒業までを見通した進路指導体制を確立していく。	①模試の活用等により、学力の定点観測を行えたか。 ①生徒の進路希望や実力テストの情報を共有できたか。 ①集会指導や講演会、説明会を通して本人、保護者へ複数回の丁寧な情報発信を行ったか。 ②職員の授業研究会や入試問題研究会等への参加者が、昨年の27名から増加したか。					
4	地域等との協働	地域との協働、連携による開かれた学校づくりを推進する。	①ホームページや学校説明会等の広報活動の内容をさらに充実させ、開かれた学校づくりを一層進める。	①最新の必要情報を提供できるようにホームページや学校説明会を改善していく。	①ホームページが適切に更新できたか。また、学校説明会等の広報活動により本校への理解度を高めることができたか。					
5	学校管理 学校運営	社会から信頼される学校づくりを推進し、事故、不祥事の防止を徹底する。	①事故、不祥事防止について不断の意識徹底を図り、根絶に努めるとともに、保護者、県民への丁寧な対応に努める。 ②DIGの実施など、安全、安心に対する意識の向上を図り防災対策の充実に努める。	①日常業務で注意意識が薄れぬよう、定期的な事故不祥事防止会議を実施する。 ②「都心南部直下地震」等に備え、実践的防災訓練として、DIGを実施する。	①不祥事防止会議を適正に実施し、不祥事を0件にすることができたか。 ②緊急時における人員掌握及び保護者への連絡体制を整えたか。実践的防災訓練として、DIGが実施できたか。					